



No.70 2013.01.30

東洋英和女学院

<http://www.toyoeiwa.ac.jp>

季節の小窓

ここはどこ? 大学のチャペル
脇です。パイプオルガンの
音色が静かに心に響きます。
(大学 横浜キャンパス)



楓

ふうえん

園

特集

軽井沢追分寮

軽井沢と宣教師たち

追分寮の紹介

2012年度 追分寮の日々

- 5 NEWS 大学・大学院／中高部／小学部／
東洋英和幼稚園／大学付属かえで幼稚園
- 11 NEWS 学院
訃報／史料室レター
- 12 英和の日々
- 13 この人に聞く 伊吹 由歌子
- 14 聖書の言葉／TOYO Wa-Wa
- 15 英和星空探訪／同窓会より／後援会より／桜プロジェクト報告

TOYO EIWA JOGAKUIN
Public Relations Report



小学部夏期学校「1年 朝の礼拝」

夏期学校の1日は朝の礼拝から始まります。清しい空気に包まれて神様を賛美できることも、夏期学校の魅力の一つです

軽井沢追分寮

高い山に登れ

良い知らせをシオンに伝える者よ。

力を振るって声をあげよ

良い知らせをエルサレムに伝える者よ。

イザヤ書 四〇章九節

軽井沢と宣教師たち

東洋英和の生徒たちにとって、軽井沢といえ、追分寮が共通の話題の舞台となります。家族と都会から離れ、自然に近づいた中での生活と友人との語らひは、卒業後も特別な思い出となっていることでしょう。

しかし、東洋英和と軽井沢との縁はもともとずっと以前に始まっていました。女学校創設のわずか三年後の一八八七年、避暑地軽井沢の「発見者」といわれるA・C・シヨアの来訪の翌年にはもう、第二代校長のミセス・ラージが新婚旅行で訪れています。彼女たちは浅間山に登ったり、馬で草津に行ったりしていました。

軽井沢に逗留した西洋人の宣教師・教師たちや外交官の中では、カナダ人が多かったようです。軽井沢の地形・気候は彼らの故郷に似ていたのかもしれませんが、ここに

夏の間の外国人たちのコミュニティが形成

され、避暑地としての軽井沢の爽やかなイメージは、気候のみならずこうした聖職者たち、宣教師たちとその家族の暮らしが規範になって作られたといわれています。

生活は質素で賭けごと、飲酒は一切ご法度です。地方に散らばった宣教師が年一回集まって情報交換や研修をする重要な年会を行うかたわら、昼はスポーツ、夜は音楽会や演劇会を催して休暇を過ごしました。次第に日本人の華族、有力な実業家、政治家

たちもコミュニティに加わるようになり、軽井沢は避暑地として有名になっていったのです。英和の旧校舎の設計者であったヴォーリズ氏も、夏の間は軽井沢に建築事務所において何棟も別荘を手掛けていました。元同窓会長の上野美代子さんは、子ども

のころ軽井沢の別荘に来ていて、ヴォーリズ夫妻にホットケーキをごちそうになっ

たというエピソードを語っておられます。長く日本で奉職されたカナダ人婦人宣教師のうち少なくとも一〇名は、今も静かな旧軽井沢あたりに点々と別荘を所有していたことが判明しています。中でも、長く校長を務めたミス・ブラックモアはブルックサイド・コテージという、その名の通り、小川のほとりにある別荘で親元に帰れない寄宿生たちを毎夏預かり、そのため、彼女は休暇中に旅行をするということもありませんでした。生徒たちは、掃除・洗濯・食事当番を交替で行い、散策や夜のオーデトリウム(現ユニオンチャーチ)で開かれる音楽会に参加するのを楽しみにしていました。

彼らの別荘はとても簡素でした。写真で見るとブルックサイド・コテージも、最近発見された現存す

東洋英和は軽井沢信濃追分に寮を持っています。英和生は追分寮で、自然と親しみ、友情を育み、静寂の中で神様と向き合います。古くからの東洋英和と軽井沢の深いつながりや、追分での英和生の生活の一端をご紹介します。

るミス・ハミルトンのコテージも、窓を大きくとって日光と風を十分取り込む造りです。夏の休暇中、もちろん多くの同僚たちやゲストが逗留したことでしょう。彼女たちは、清涼な高原の空気に浸りながら日々祈りと黙想の時を大切に過ごし、お互いの交わりを深めていたのでしょうか。そこでは私たちの行う修養会の原型が営まれていたとはいえないでしょうか。

史料室 酒井ふみよ



追分寮の歩み

1957(昭和32)年10月17日	軽井沢追分に土地(約4,143㎡)を80万円で購入
1959(昭和34)年7月	ノアの箱舟をイメージした追分寮竣工(延べ床面積900㎡、設計:大江宏研究室) 小学部(2年生以上)の夏期学校が追分寮で始まる 一教職員およびその家族の宿泊料金は1泊につき400円(3食付)ー
1960(昭和35)年	中1夏期修養会(現中1オリエンテーション)を青楓寮から追分寮に変更
1961(昭和36)年7月10日	東洋英和幼稚園年長組、追分寮で初のキャンプ実施
1969(昭和44)年頃	隣接の油屋旅館の土地を購入し、敷地を拡張する(6,627㎡となる)
1971(昭和46)年7月	小学部1年生の夏期学校が追分寮で始まる
1994(平成6)年	追分寮将来計画委員会設置
1995(平成7)年9月	軽井沢追分寮解体
1996(平成8)年6月22日	現在の追分寮竣工(延べ床面積1,825㎡、設計・施工:笹沢建設株式会社)
1997(平成9)年	大学付属かえで幼稚園年長組のキャンプを箱根から追分寮に変更

追分寮の紹介



1959年 旧追分寮竣工時



1960年度 中学部修養会(中2・中3)
左は井上 健之助先生



1960年度 中1夏期修養会 「お当番は大変でした」



現在の追分寮

前管理人 浜田鉄朗・典子ご夫妻への インタビュー

●何年間管理人を

お務めくださいましたか?

追分寮が新築された一九九六年六月から二〇〇三年三月と、二〇〇七年六月から二〇一二年三月の計十二年間です。

●英和とのつながりを教えてください。

短期大学保育科卒業生で、長女が東洋英和幼稚園の先生でした。

●英和生の印象を教えてください。

のびのびと明るく、生徒同士の交流、会話行動が見ていると楽しかったです。先生方のご指導もきめ細かくあたたかな様子で、神様に守られているという安心感が全体に漂っています。

●メッセージをお願いします。

卒業生が各方面で活躍していらつしやるので、卒業生が属しているグループ(教会・幼稚園・クラス会など)が、これからは追分寮を愛して末永くご利用されるとよいと思っています。



浜田様ご夫妻

管理人 磯部松男・みゆきご夫妻への インタビュー

●いつから管理人を

お務めくださっていますか?

二〇一二年四月開寮準備からです。

●英和とのつながりを教えてください。

短期大学の卒業生です。

●英和生の印象を教えてください。

みんな礼儀正しく元気が良く、自然の中でのびのびと過ごしているように感じました。また寮内のあちこちから年齢を問わずよく歌声が聞こえてきて、とても和まされました。

●今年の夏、一番印象に残った出来事を教えてください。

卒業生が懐かしさのあまり、軽井沢に来たついでに立ち寄る光景を見て、どんなに年月が経とうと、思い出はいつまでも生き続けるのだなど、再確認しました。また、その思い出を作ってあげられる場所に、今自分が居ることに感謝です。



磯部様ご夫妻

追分寮 宿泊利用案内

追分寮は、野尻キャンプサイト同様に、学院関係者の皆様にご利用いただけます。是非ご利用ください。

■利用期間:5月連休明け~9月30日(学校行事の期間を除く) ■利用料金:6,000円~8,000円(1泊3食付) [2012年度]

2012年度 追分寮の日々

8月

小学部 夏期学校			
21～23日	23～25日	25～27日	27～30日
2年2組 6年2組	3年生	4年生	5年生 (3泊4日)

中高部 夏期修養会
1～3日

大学付属かえで幼稚園 年長組キャンプ
29～31日

小学部

小学部では、どの学年も軽井沢追分寮に宿泊して、夏期学校を行っています。

一年生はクラスごとにたくさん先生の先生が見守る中、初めての夏期学校を体験します。

二年生と六年生は、姉妹のように一緒に過ごします。三年生と五年生は学年ごとに行き、学年の絆を深めていきます。

主題聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」

(ヨハネによる福音書 一五章二節)

一年生は初めての夏期学校を、何をすることも楽しそうに過ごしました。また、自分の係の仕事にも喜んで取り組みました。

二年生と六年生の夏期学校では、六年生がカレイライスを作り、二年生はお礼にランチョンマットを作りました。楽しい夕べのだしものも遠足も、いつも一緒です。遠足の行き帰りは長い道のりですが、六年生が二年生に優しく気遣う姿は微笑ましいものです。

三年生は互いに協力しながら、整理整頓や時間を考

えての行動をがんばることができました。遠足では、鬼押し出しのハイキングコースを楽しく歩きました。

四年生は、自分たちでプログラムの司会や進行を上手に進め、楽しむことができました。碓氷峠の山道は少し苦しかったけれど、上から景色を眺めたときは、達成感でいっぱいになりました。

五年生は、自分たちでどんな生活をつくりだすことができました。



3年 ヒカリゴケを発見



2,6年 ベッドの準備

大学付属かえで幼稚園

かえで幼稚園の年長組キャンプの期間は、夏休みの終わりであり、二期期の始まりでもある八月末から九月にかけての二泊三日です。行きは幼稚園からの貸切バスの旅、帰りは信濃鉄道・長野新幹線・東海道新幹線を乗り継いで電車の旅をしています。

その時分の追分は、コスモスが咲き、赤とんぼが飛び、虫が音色を響かせ、初秋の装いです。その美しい自然を感じながら、子どもたちは、寮での生活を穏やかに楽しみます。グループマザーと子どもたちが六、七人の家族になり、身支度・ベッドメイキング・食事・入浴・就寝などを、交わりながらします。また、他のグループのお部屋を巡ったり、広い廊下で遊びを創り出します。ハイキングやキャンプファイヤーも心に残るのですが、寮での暮らしが幸せなことは嬉しいことです。

それと共に、厳かで静かな寮のチャペルでの礼拝は特別な時間です。毎年三日間の内の一日は、北軽井沢在住の元東洋英和女学院短期大学教授であられた宣教師のジュティーン先生が訪れ、礼拝の中でメッセージと共に『主われを愛す』の讃美歌を英語で教えてくださいます。

自分たちのことも、お家で待っている家族のことも、愛し守ってくださるイエスさまの存在を知っていることがキャンプの安心につながっています。



ジュティーン先生と共に
—チャペルにて—



寮の庭にて、木もれ陽を浴びての昼食のとき

池の平湿原でのハイキングの他にも、JA見学や追分の歴史を学ぶ活動などを通して、充実した四日間を過ごすことができました。

5月

中高部 中1オリエンテーション	
14~16日	16~18日
前期	後期

7月

東洋英和幼稚園 年長組キャンプ
3~5日

13~15日	17~19日	19~21日	
1年1組	1年2組	2年1組 6年1組	

中高部

中1オリエンテーション(五月)、夏期修養会(八月)
四月に入學してきたばかりの中1の生徒にとって軽井沢追分寮での中1オリエンテーションは期待と不安でいっぱい行事でしょう。軽井沢では、東京では四月に散った桜が丁度見ごろを迎えて、それがカラマツの新緑に美しく映えています。小学部から入学してきた生徒にとっては勝手知ったる追分寮とはいえ中学に入って新たな気持ちで新しい友だちと過ごす三日間は、

特別の意味をもちます。「よきサマリヤ人」や「放蕩息子」の諭えを通して敬神奉仕について学び考える中で、これからの学校生活の心がまえが整えられます。八月には修養会が二泊三日で行われました。中3が四名、高二が一名、高三が四名、先

が被災者のためにできることを考えました。二日目には中軽井沢の湯川ふるさと公園の清掃ボランティア体験もしました。夜は追分寮のながい廊下をつかって恒例「スイカ割り」もしました。みんなで歌った「虹のやくそく」の最後のフレーズ「虹の約束、不思議な導き、信じる心が僕らを支える。明日を信じ、空を見上げ、物語を紡ごう」のように、明日を信じ福島の人々との物語を紡いでいきたいと思います。



中1オリエンテーション
恒例のお血に絵付け
祈り、愛等好きな言葉をいれて



夏期修養会
福島の方々をお招きする企画について話し合いました

東洋英和幼稚園

幼稚園のキャンプは一九六一年に始まりました。親元を離れ二泊三日追分でゆつたりした時間を過ごします。自分で絵を描いた麦わら帽子をかぶり、リュックを背負って東京駅から出発です。新幹線とバスに乗り寮に到着。一日目は雨空でしたが、広い廊下でバスケットボール、鬼ごっこ、紙飛行機飛ばし等自由に過ごし、会議室では全員でゲームを楽しみました。夕食はbuffet形式でたくさん食べ、広いお風呂に入った後は、二段

ベッドでグループのお友だちと先生と寝ます。二日目の午前中は、追分の森の散歩に出かけました。原っぱではバツタをつかまえたり、花の冠を作りました。帰り道は迷子にならないように目印を見つげながら寮に戻り、庭で昼食。昼後は庭を探検、落ちている松ぼっくり等で製作。夕方のキャンプファイヤーでは、皆の到着を待っていた追分の森深く住む魔女が登場し、火の周りで楽しい踊りを教えてくれました。

三日目は、窓から緑が見えるチャペルで感謝の礼拝を守りました。家庭へのお土産は寮近くの店、寿美屋さんが追分の旬の果物で手作りしたジャムを届けてくださいました。制服に着替え、昼食後帰路につきました。東京駅で家族が迎えに来てくださりお互いにホッとした表情を浮かべていました。



原っぱで自然を満喫する子どもたち



魔女に踊りを習いました

その他の利用状況

- 中高部合唱部
- 中高部ハンドベル部
- 大学山下ゼミ
- 学校法人堀江学園 桜輪幼稚園
- 学校法人アブタン学園 大宮愛仕幼稚園
- 日本基督教団代々木教会付属 シオン幼稚園
- 日本基督教団 富士見町教会
- 日本基督教団 鳥居坂教会
- ほか

増田弘ゼミ・池田明史ゼミと沖縄国際大学の合同ゼミ

国際コミュニケーション学科三年

池田ゼミ

ゴールド舞

沖縄国際大学との合同ゼミでは「沖縄から基地はなくなるならいいのか」というテーマで話し合いました。一口に基地問題といっても現地で暮らす学生と、私たちの間ではその問題に対する考え方に大きな隔たりがあることを実感しました。事前の学習で基地が身近にあることによる危険性を学びましたが、現地には赴くと民家のすぐ隣には基地のフェンスがありました。過去に大学構内に米軍ヘリが墜落した跡まで残っていました。現地で暮らす方々の不安は、私が見てきた以上のものだと思います。沖縄に関連した話題は毎日のように取り上げられていきます。今回の合同ゼミで現地の学生と議論したことにより、基地問題をより身近に感じることが出来たのが、私にとって一番の収穫でした。



合同ゼミ(沖縄国際大学にて)

国際社会学部

国際社会学部 増田・池田ゼミと、沖縄国際大学地域行政学科の吉次ゼミは、毎年合同ゼミを開催しています。2002年から始まった合同ゼミは今年度で10周年を迎え、昨年6月22日(金)に行われた際は「沖縄から米軍基地はなくなるのか」をテーマに活発な意見交換がなされました。

国際社会学科三年

増田ゼミ

三浦みつき

私たちは沖縄国際大学との合同ゼミにて「沖縄から基地はなくなるのか」というテーマでディスカッションを行いました。学生に話を聞き驚いたのは「年代により意見が異なる」「賛成反対ではなく共存すべき」という意見でした。戦争を経験した人とそうでない人では米軍に対する意見は異なり、特に若い人は共存すべきと考える人が多いそうです。米軍のお陰で生活できている人もいるというのが理由として挙げられました。参加以前私は基地には反対であり県民の方々も同じと考えていました。しかし実際に話を聞き、彼らがより良い生活を送れるような共存策を考えるべきと思うようになりました。実際自分の目で見て生の声を聞くことができ貴重な経験となりました。

人間科学部

国内外歴史文化研修B(デンマーク)を終えて

(研修先:デンマーク International People's College)



International People's College



Japanese Class

国民の生活満足度が世界一高いというデンマークの文化と社会について、世界各国から参加する学生たちと寮で生活を共にしながら、英語による講義と見学で学びます。この科目は人間科学科総合人間学コースの科目で、日本での事前・事後の講義と現地での研修から成り立っています。今年度は9名が履修しました。

人間科学科三年

西川 晴菜

研修の場であるInternational People's College (IPC)では、毎日午前中に英語とデンマーク語の授業が行われ、英和生は英語を受講します。午後は、デンニッシュクラスの学生と合同でデンマークの社会や文化についての授業を英語で受け、夜には学生たちが自らプログラムを企画します。私たち日本人は簡単な日本語や折り紙を教える

最終日の Farewell Party では、私たち英語クラスは『花は咲く』という東日本大震災の復興を支援する歌を紹介しました。皆とても真剣に聴いてくれて、感動したことを今でも覚えています。三週間という短期間でしたが、この研修で私は多くのものを得ました。デンマークに関する知識、英語力、そしてさまざまな国の友人たちです。IPCで過ごすうちに英語に対する苦手意識は消え、大切なのは正しい文法よりも、話そうとする姿勢であることを学びました。帰国してからも連絡を取り続けるような友人もでき、この研修に参加して良かったと心から思います。

国際協力研究科が目指すもの



中川正春元内閣府特命担当大臣講演会
「多文化共生社会を目指して
～難民受入れを中心に」

現代の国際社会はさまざまな問題を抱えています。先進諸国や新興工業諸国は、二〇〇八年に生じたリーマンショックの影響からまだ立ち直れず、経済の低迷が続いています。開発途上諸国では、飢餓、貧困、難民などの諸問題を抱え、紛争が絶えない状況にあります。アラブ諸国に

小久保 康之

国際協力研究科 教授

においても「アラブの春」と呼ばれる民主化運動が見られましたが、政治的に安定しているとは言いがたいのが現状です。これらの諸問題について、我々はこのように立ち向かうべきなのでしょうか。国際協力研究科が目指すものは、まさにそうした国際社会の諸問題に真正面から取り組み、よりよい社会を構築するための視座を養うことにあります。国際協力研究科は国際社会領域と国際協力領域に分かれており、前者では国際社会の諸問題をより深く理解することに主眼が置かれ、後者では国際協力に実際に貢献するにはどのような方法があるのかについて検討します。

本研究科では、座学にとどまらず、フィールドワークやインターシッピングなど現実社会との接点を重要視しています。国際社会ワークショップや国際協力ワークショップでは、外部から最先端のノウハウを持った講師陣を招聘して勉強しています。また、著名な方を講師として招き、講演会を行うこともあります。十月十三日には中川正春元内閣府特命担当大臣からお話を伺う機会を設けました。一般に公開している授業・講演会もありますので、興味のある方は大学院のホームページから情報を得て、是非参加してみてください。

2013年度新講座 ※一部掲載

- ・日本史の検討
- ・アジアの文化遺産
- ・オルガンの歴史
- ・ブレインジム基礎コース
- ・ブレインジム水中コース



「ジェイン・オースティン・クラブ」
講座(六本木校地)

発育・発達分野の仲間たちのこと

…そして仲間たちへ

人間科学研究科 教授

久保田 まり

発育・発達分野の修士課程には五名の院生が所属しています。最も先輩であるTさんは、K大学附属病院のNICUにて、看護師として一〇年以上、極小未熟児の看護、およびご家族への心理的援助を専門とされてきました。(小さな)命の救護の最前線は、同時に養育者支援の最前線でもあります。「看護がなすべきこと、それは自然が患者に働きかけるに最も良い状態に患者を置くこと」というナイチンゲールの言葉は、そのまま、養育者が子どもになすべきこととしても

読み解けることを教わった気がします。Mくんは、教育学部卒業後、八年間にわたって児童養護施設のケアワーカーとして、家庭養育が叶わない子どもたちの最も身近な位置で共に生活をし、父親・兄・教師・先輩等の複数の役割を担いつつ「統一的、個別的」な関係性を彼らとの間に築いています。現代の社会的養護における重要課題は被虐待児の問題ですが、親との愛着由来の心的外傷を抱えている子どもたちと、施設ケアワーカーとの「愛着の(再)形成の可能性」が現在のMくんの研究テーマです。さらには本学人間科学部出身者が三名

おり、「幼児の語りにおける現実と空想」「発達障害児の療育」「PC操作に関する概念獲得の発達」等の研究テーマを抱え、「学究肌」をのぞかせています。そんな彼・彼女たちに願うことは、地上でへかたちある花として早々と咲き急ぐことよりも、むしろ地下茎(リゾーム)のごとく、多様に多方向へと分散し(潜在的な多様体)であり続けること。「専門」などという狭い同一性に固執せず、何かが生まれつつある(生成)の現場に常にアクチュアルに参与されることを希望します。そして、私自身も常にそうありたいと思います。

心が拓かれ、磨かれる場をみつけませんか

生涯学習センター

生涯学習センターは、二〇一二年度に設立一五周年を迎えました。横浜と六本木キャンパスにおきまして、五分野にわたる公開講座、短期講座、学部公開講座、特別講座、資格講座を展開しております。受講生の皆さまからは、キリスト教主義学校ならではの講座の開設、継続して学ぶことができる講座、また、充実しているスポーツ施設を利用できる講座等、色々々ご希望をいただいております。皆さまのご希望に添えますよう、二〇一三年度から各分野での新設の講座も予定し、さらに充実した幅広い学びの場の提供をめざしております。皆さまのご受講をお待ちしております。

修学旅行 ～奈良・吉野の旅～

二〇一一年度から修学旅行の目的地を開西地方とし、今年度は奈良を中心に訪ねました。

修学旅行のめあて

- ① 歴史遺産を見学することにより、先人の知恵を学び、歴史学習を深めよう。
- ② 伝統的な文化に触れ、体験したことを、これからの生活の糧としよう。
- ③ 集団生活の中で、規律を守り、互いに協力して過ごそう。
- ④ みんなが楽しく、豊かなよい旅行ができるようにしよう。

〈一日目〉

平城京跡を見学し、再建された朱雀門の大きさから、当時の都の偉大な力を感じた。



遣唐使船から

乗ることもでき、遣唐使の気分が味わえたようです。

宿泊先の奈良パークホテルでわたしたちを迎えてくれたのは、奈良県のマスコットキャラクター「せんとくん」です。夕食後にはダンスも披露してくれました。これもまた、奈良ならではの貴重な体験となりました。



踊るせんとくん

〈二日目〉

興福寺の美しい阿修羅像を拝観した後、世界最大の木造建築である東大寺を訪ね、その巨大な大仏の迫力に圧倒されました。また、奈良公園にはたくさん



奈良公園

鹿がいます。鹿せんべいをあげながら、鹿と戯れることも楽しかったようです。

境内全体が美しい庭園の風情になるように考えられ、のびのびとした、美しい庭を眺めながらいただいた抹茶の味は、格別でした。

〈三日目〉

午前中は、吉野の歴史を巡る散策をしました。吉水神社では、義経ゆかりの部屋や醍醐天皇の玉座等の重要文化財をとても間近で見ることができ、長い歴史の中で何度も吉野の地が歴史の舞台になったことを改めて感じました。また、



真剣に箸を削る

吉野は、桜とともに和紙作りでも有名です。和紙を中心にお土産を選ぶ等、家族への買い物も満喫しました。

午後には、伝統的な文化に触れる体験活動を行いました。一つ目は箸作り。

吉野杉をやすりで削り、模様や名前を焼き入れて、世界に一つだけの箸を作りました。

二つ目は和紙作り。紙すきを体験し、自分で模様をつけたはがきを八枚作りました。その夜には、はがきを書いて、家族や親戚へ送ることができました。

福西さんへ
六年二組 林田 真由子
今回は、和紙づくりを教えてください、ありがとうございました。和紙を作るときに使ったねちよねちよ液体がおもしろかったです。和紙のかざりつけや色づけも楽しかったです。しかも、わたしたちだけのためにその日中にかわかし、届けてくださってとてもうれしかったです。わたしは、あの和紙が100年も200年もつというのを知り、すごいなあと思いました。和紙づくりでは、少し失敗をした所もあつたけれど、六年生の修学旅行のとてもよい思い出となりました。今まで、あまり和紙を見たりする機会がなかったけれど今回、和紙づくりを体験してもっと興味深くなりました。本当にありがとうございました。

三つ目は、柿の葉ずし作り。実際に酢飯を握って柿の葉でくるんで包装すると、まるでお店で売っているような仕上がりになり、みな大満足でした。家族への良いお土産となったことでしょうか。



柿の葉ずし作り

〈四日目〉
桜守の方、宿の方のご好意により、庭に記念の植樹をさせていただきました。数年後には、見事な桜の花を咲かせるそうです。「大人になったらここで桜を見ながら同窓会をしたいな」そんな夢を語り合いました。

修学旅行前から、社会はもちろ

ん、国語、音楽、家庭科等で事前の学習を進めてきたので、実際に本物を目にしたり、体験したりすることで、より歴史や伝統を深く感じる事ができました。また、仲間との楽しい時間を通して、学年の絆を深めることができました。きつとこの修学旅行は、小学部生活の大きな思い出になったことでしょうか。



植樹



事後学習 二宮 萌

奈良ではたくさんさんの素敵な出会いがありました。吉野の宿泊先である竹林院群芳園の支配人の奥さまは、東洋英和の卒業生の叔母さまであり、親戚に何人も東洋英和の卒業生や在校生がいらっしゃる、英和にとって大変ゆかりのある方でした。また、柿の葉ずし作り体験を指導してくださいました平宗さんの奥さまも、東洋英和の卒業生です。東洋英和の強い絆を奈良の地で結んでくださったこと、神様に感謝したいと思います。

ひよこ組—三歳児クラス—

東洋英和幼稚園創立九八周年の歴史の中で、三年保育(三歳児クラス)は二四年前から男児のみでの少人数保育を行っています。

今年度は七名。ほとんどの子どもが初めて経験する集団生活です。幼稚園が安心できる場になって欲しいと願い、支度等を一つひとつ丁寧に教えています。幼稚園ではこんなことをして遊べるということ、自分でやりたいことを自分で決めて行えることが出来ることを子どもたちは知り、そして、幼稚園のルールを徐々に身に付けていきます。

ひよこ組の庭は園舎の裏手になり、静かな守られた空間となっています。三歳児の子どもたちの居場所となるには、ちょうど良い広さです。常に保育者の側で遊ぶ子ども、とにかく自分のやりたいことをひたすら続ける子どもとさまざまな姿があります。ひよこ組の子どもたちは、同じ場においても自分の遊びに夢中です。しかし、成長と共に、友だちという存在が気になり、遊びの中で子ども同士の話が増えるからです。担任は少人数であるからこそ、その子どもがどのような遊びが好きなのか、何を求めているのか、と子ども一人

ひとり向き合う時間を多く持つことができます。

幼稚園生活を送る中で、子どもと保育者、子どもと子ども、保護者同士、それぞれの関係が深まります。少人数だからこそ、何でも言える関係になりときに手が出て喧嘩をして悲しい思いをしつつも、それ以上にみんなでいる楽しさを感じます。幼稚園にいながらも家庭的な雰囲気の中でたくさんの思いを共有します。さまざまな経験をし、思いを出し合いながら一年を過ごし、成長していきます。



裏庭で遊ぶひよこ組の子どもたち

大学付属 かえで幼稚園

—ごっこを楽しむ子どもたち—



絵本「こすずめのぼうけん」より一羽をひろげて飛び立とうとしているすずめたち—



ホールにて、積み木で家をつくり、すずめごっこをしている子どもたち

かえで幼稚園で繰り広げられているたくさんの遊びの中に、子どもがなりきって楽しむ遊びがいくつもあります。保育室のままごとの場や庭の木陰や芝生の上で、お母さんやお父さんになって家庭の日常のドラマに空想を含めたお家ごっこをする子どもたち。積み木やダンボールで家や乗り物を作り、その中でうさぎやライオンやねずみ等になってごっこをする子どもたち。お店屋ごっこや、レストランごっこなどでも、子どもはその役自然になりきり、そのおもしろさを味わっています。

一方、絵本をもとに、保育者を交えて劇遊びをしている子どもたちもいます。二〇一二年の秋には、『こすずめのぼうけん』(福音館書店)や『たんだのたんてい』(学研)、『とんとんとめてくださいな』(福音館書店)等の劇遊びが、展開していました。子どもは、何度も何度も読み親しんだお話の世界を、身体と言葉と気持ちを使って表現したくなります。そして、友だちや保育者と関わり合いながら遊ぶ中、ますます深くそのお話の世界に入っていきます。劇遊びをする上で、保育者は、その年齢に合った展開を考え、子どもが自分でできる小道具の製作の準備をします。例えば鳥になっている子どもには口ばしや羽を作ることを、探偵ごっこの小道具には虫眼鏡や地図などを作ることを提案します。作ったものが、劇遊びのなかまのしるしとなって、一層楽しさが増していきます。

園でのごっこや劇遊びには、なりきって表現する個の喜びと、友だちとつながって共有の世界を楽しむなかまの喜びが生まれます。これは、幼児期にぜひ存分に感じて欲しい喜びの一つでもあります。



蔦のからまる 体育館に

中高部の正門入って正面奥に見える体育館西側について、壁面緑化工事を行いました。壁には緑の特別なフェルトと網が張られ、設置したプランターにヘデラ・カナリエンシス、ヘデラ・ヘリックス、ビンカマジヨール・バリエガータの三種のツル性植物を植えました。

ツルが成長して、壁一面緑で埋まるまでには数年かかりますが、楽しみに見守りたいと思います。

『英和の森の植物たち —感じる、遊ぶ、食べる—』 を刊行しました

元大学非常勤講師の中池敏之先生と人間科学部教授の川崎未美先生の共著、『英和の森の植物たち』が二〇二二年一〇月一日に刊行されました。この本は、東洋英和の横浜校地を中心とした四季折々の植物に関する学院の記録です。「楓園」四一号から六七号に掲載した中池先生の連載「英和の植物通信」、博物館概論や博物館学各論の授業での配付資料「学内植物通信（一五〇回分）」のほか、論文なども掲載されています。英和生や地域の方々を始め、すべての方が自然に親しむこと

によって、その営みの豊かさなどを感じ、豊かな感性を育むきっかけとなつてほしいとの先生方の思いが詰まった一冊です。神奈川を中心とした書店のほか、六本木キャンパスの法人事務局・横浜キャンパスの紀伊國屋ブックセンターでも販売しております。お問い合わせは、法人事務局総務企画部総務課（TEL:03・3583・3325 FAX:03・3584・5227）までお願いいたします。



訃報 一心より哀悼の意を表します—

長田 茂氏	元中高部技能職員等	2012年 7月17日
阪口 陽子氏	元中高部教諭等	2012年 8月12日
那須 米郎氏	元大学事務部長等	2012年 8月19日
稲葉 一彦氏	元小学部教頭	2012年 9月27日
野田 文一郎氏	元小学部一般職員	2012年10月31日



史料室レター No.9

ミス・カートメルの遺品を展示中です

学院の創立者として、東洋英和在校生・卒業生なら誰でも知っているミス・カートメル。しかし、この方が日本に最初に滞在されたのは三七歳からたったの四年間、二度目の訪日も四年間だけだったことを知ると、その働きの大きさに驚かされます。

そして、先生が長生きされ九九歳で一九四五年に天に召されたということは、ご存じでしたでしょうか。帰国後ずっと母国において、麻布の地に建った東洋英和のために、女性たちのために、また日本人の人々のために祈り、支援をされてきました。

現在、学院史料展示コーナーでは、ミス・カートメルの姪の孫にあたるアンステイス・プロムさんから学院に寄贈された遺品の数々を紹介し、展示しています。

かつて遠方の人々との連絡手段はもっぱら手紙でした。先生がどんな方と交流を保つてどんなことを見聞きされ、また書いておられたかを知るのには、遺された書簡類が格好の材料となります。若い頃の美しい筆跡の手紙は、細かい字でぎっしり紙面が埋め尽くされています。一方、高齢となり視力が落ちた中で、かつての日々を回想して書きつづられたメモからは、先生の経験された開校時の物語や、関係者から聞いて感動された物語を読むことができます。

先生が大切にとっておかれた帰国時の乗船名簿や、今回史料室でも初めて入手した古写真も紹介しています。展示期間は六月までの予定です。ぜひ本部・大学院棟一階ロビーにお立ち寄りください。



ミス・カートメル(87歳)



自筆書簡

—プロムさんからの寄贈品—

東洋英和幼稚園

■祖父母の会 9月28日(金)

五歳児がゲームやシヨ、お店コーナーを開きました。お店に並んだ子どもたち手作りの染物のハンカチや染紙のしおり等を、祖父母の方々が選び、献金していただきました。

■父と遊ぶ日 10月13日(土)

幼稚園でおやつ作りや、製作・大工・泥粘土コーナーが開かれ、お父様と好きな遊びを楽しみました。

■創立記念日礼拝

11月6日(火)

保護者と共に、五歳児は中高部メモリアルチャペル、三・四歳児は幼稚園にて礼拝を守りました。

■りんご園遠足

11月9日(金)

五歳児が長野県上田市にあるりんご園に行きました。



父と遊ぶ日 大工コーナー

大学付属かえで幼稚園

■五歳児追分キャンプ

8月29日(水)～31日(金)

■二期始業礼拝

四・五歳児 9月5日(水)

三歳児 9月6日(木)

九月入園の方の入園式を兼ねての礼拝をしました。

■五歳児子どものアトリエ

9月25日(火)

横浜美術館にて粘土を教材に、豊かな造形活動の時間をもちました。

■四・五歳児ファミリーデー

10月13日(土)

秋晴れの中、大学グラウンドにて、親子でからだを動かしました。

■三歳児オープンデー

10月15日(月)

創立記念日礼拝・音楽会 11月6日(火) 主を賛美し、感謝しました。



横浜美術館 子どものアトリエにて

小学部

■秋の遠足 9月21日(金)

低学年は林試の森へ、三年生～五年生はこどもの国へ行きました。三年生以上は縦割りグループで行動し、学年を超えた交流を深めることができました。

■修学旅行

9月25日(火)～28日(金)

六年生の修学旅行では、歴史への理解を深め、さらに伝統文化にも触れることができました。さまざまな体験活動も心に残ったようです。

■学芸会 11月30日(金)

一・三年は合唱、五年は英語発表、二・四・六年は劇の発表をしました。一人ひとりが精一杯力を発揮することができました。



学芸会 2年生「にじを見つけたら」

中高部

■キャンプ(野尻湖)

8月3日(金)～8日(水)

水泳、ボート、ヨット、カヤックの技術を上達させ、ファイヤーやクッキングもを行い、卒業生リーダーと共に自然の中での生活を楽しみました。

■体育祭 10月6日(土)

大学のグラウンドで、ダンス、リレー、大玉送り、棒引き等の競技が行われ、白の四組が優勝しました。

■楓祭

10月19日(金)・20日(土)

今年のテーマは「COME TOGETHER」。各クラブが、大講堂のステージや教室展示等で活動の成果を発表しました。入場者は五八六一名でした。



野尻キャンプ 卒業生リーダーとともに

大学・大学院

【大学】

■ヨコハマ大学まつり

9月29日(土)・30日(日)

市内全二八大学が参加し、本学からはハンドベル部とチアリーダーズ部が出演、金沢みどり教授による講座が行われました。

■かえで祭

11月2日(金)・3日(土)・祝

今年のテーマは「Garden」。三日には、生涯学習センター一五周年記念学長講演、保護者と教職員の懇談会も同日開催されました。

■チャペルコンサート

11月16日(金)

オルガニスト矢吹綾子さんによるコンサートが催されました。

【大学院】

■大学院学位授与式・後期入学式 9月22日(土)



ヨコハマ大学まつり 学生パフォーマンスステージ (ハンドベル部演奏、中央は林文字横浜市長)



日本軍の捕虜だった 連合軍兵士たちとわたし

— 体験共有と対話 —

事実を共有し、人間同士として気持ちを伝え合う交流。伊吹由歌子さんが第2次大戦日本軍の連合軍捕虜扱いに関する理解と重要性について、熱く語ってくださいました。

一九六二年に新米英語教員として母校に帰るや、中一の担任をさせてくださった長野弥先生には感謝一杯です。生徒時代全く目立たず、楽しいクラスにいました。素敵な歌い手がいて富岡先生作曲の音楽部ミュージカルでアリババ、わたしたちは盗賊で歌い踊りました。培われた英和 spirit と祈りに、今支えられています。愛らしい生徒たちの成長ぶりは目覚しく、しかし自分の英語能力のなさも痛感。育児で在宅期間中に通信教育で英会話を学びました。他国の友人もでき、あるエッセイコンテストの賞でロンドンの語学学校に四週間。初めて日本を外から見ました。学習院女子中高で非常勤講師として二〇年余お世話になり、交換生や世界のお客さまを招いて生徒たちと交流してもらい、想いを伝え合える出会いの人生を彼女たちにも願う恵まれた教員生活でした。



元捕虜訪日プログラム：市民との交流会
(2012年10月14日)

ところが皆さんは英連邦墓地(保土ヶ谷)をご存じですか？第二次大戦日本軍の捕虜中、約三万五〇〇〇人が日本へ輸送され、約一〇〇〇の収容所、約六〇社の鉱山、工場、港湾等で強制労働をさせられ、一割は日本で亡くなりました(シベリア抑留者の死亡率と同じ)。米と蘭は自国に遺骨を持

帰り、英連邦六国の約一八〇〇人がここに葬られています。毎年八月第一土曜一〇時半の日本人主催の追悼礼拝では各国代表のほか、バグパイプ、男性合唱団も参加します。保土ヶ谷からバスで十五分「児童遊園地」下車、タクシーなら一二〇〇円です。雨宮剛青山学院名誉教授・故斎藤和明ICU名誉教授・故永瀬隆元泰緬鉄道日本軍憲兵隊通訳の三氏が一九九五年に始め若い世代に引継がれました。二〇〇〇年、初めて参加したわたしは、招かれたスピーカー、レスター・テニー博士と出会ったのです。高三の二五人が彼の捕虜体験を読んでメールを送り、彼は全員に返信しました。翌年来日、十一校で八〇〇人にテニーさんは会い手品で笑わせ「君たちは僕の身に起こったことに何の責任もない。でも自分の人生には責任があるんだよ」と語りかけました。暴力の後遺症で身障者パスを持ち、左鼓膜は破れ総入れ歯。独軍捕虜の米兵死亡率一%、日本軍捕虜の米兵では四〇%です。「生きて虜囚の辱めを受けず」は多数の玉砕を生み、捕虜となった連合軍の若者に恐怖の暴力と屈辱による身心の傷を残しました。

昨年米元捕虜七名が来日、東京で二回、京都で一回の市民との交流会を持ち、使役企業三社が迎え入れました。写真による報告を下記サイトでご覧ください。彼らが日本に求めるのは人間として認められ尊厳を回復すること。日本人が彼らの体験を知り人権侵害あれば認める誠意の大切さを感じます。卑怯者と目された彼らの体験

に学ぶのは勇気と愛なのです。捕虜使役の社史を認め友情を交せば彼らの癒しとなる一方、国際社会に信頼される企業イメージとなります。人権感覚と人道的価値観を民主主義諸国と共有するところに、日本の、ひいては世界の平和が見えるのでは？ 友の死への自責等、苦しみを愛で乗り越えた方々は各々人として魅力に溢れ、日本人に戦時事実の共有と平和の尊さを訴えています。

■いぶき ゆかこ / 元学院評議員、元中高部英語科教諭。現在は太平洋戦争日本軍の捕虜たちの体験や思いを日本で伝える交流活動に従事。共訳レクター・テニー著「パターン遠い道のりのさきに」(梨の木舎)等。
NGO「US-JAPAN DIALOGUE ON POWS(捕虜 日米の対話)」
<http://www.us-japandialogueonpows.org/>



元捕虜訪日プログラム：離日前の記念撮影
(2012年10月21日)



小学部英語室の壁

あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

申命記六・五

これは旧約聖書、申命記のみ言葉です。後に主イエスが「最も重要な掟」とは何かと問われ、これをもってお答えになりました。そして言わずと知れた、学院標語「敬神奉仕」の典拠であります。ではこれに続く部分をご存知でしょうか。

今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座っているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。

申命記六・六〜七

小学部の英語室には、学院標語や、小学部の月聖句が英語で掲げられています。教室で日々繰り返し返されるほかに、月聖句は英語でも取り上げられています。

さらに近頃は月聖句にメロディーがつき、子どもたちは音楽の時間に教えられたそれらの歌を口ずさんでおります。

主イエスがお育ちになった頃のユダヤでは、徹底した聖書教育がなされていました。わたしたちも「子供たちに繰り返し教え」、「これを語り聞かせ」ていきたいです。

子どもたちの中にもともと備わっている力を引き出すことが、わたしたち教員の仕事です。しかし神様からの招き、導き、恩寵は、もともと人間の中にあるものではありません。伝えるしかないからです。

小学部長 山本 香織

連載「英和探訪」に代わって、読者のみなさまとつくるお便りコーナーが始まりました。たくさんお寄せいただいたお便りの中から今回は、在学中の先生との思い出・エピソードを選んで掲載いたしました。これからもみなさまからのお便りをお待ちしております。

おたよりコーナー

TOYO Wa-Wa

家庭科の居残り

私が高等部にいたときに、家庭科の授業でパジャマをつくりました。不器用だった私は授業時間内に仕上げる事ができず、友達数人と放課後残ってつくっていました。その数人のために、遠藤先生も黒澤先生(当時真田先生)も立ち会ってくださっていました。私たちは、授業時間外であったという解放感からか、いつしか手をとめておしゃべりに……。遠藤先生に「先生、家に帰ったらごはんつくるんですか?」「自分の子どもってかわいい?」などと質問攻め。それでも、先生は笑いながら「あたりまえでしょ」と答えてくださいました。そんなたわいのない話でしたが、先生の「先生」でない部分のお姿を垣間見ること、私はこれからどんな大人になるのだろう、女性としてどう生きていくのだろうと考えたことを覚えています。最後は「早くやりなさい!」と叱られました……。倉田先生や永井先生の受けたプロポーズの話、清野先生が生徒だったころの東洋英和の話、沓澤先生のこわい話、石澤先生の大学での話など……。授業中の余談ばかり、忘れずに思い出に残っています。

娘がこの春中学部に入学しました。娘にもこんなふうにかくさんの素敵な出会いや交流がありますことを期待しています。

藤井(旧姓:倉方)章江
高等部 1989年卒/大学 1993年卒

思い出の体育

今から50年くらい前の話。英和での体育の時間は中学部入学試験から始まりました。入試科目は筆記試験4科目に加えて体操の試験でした。徒手体操と2本並べた平均台をわたる内容だったと思います。私は平均台から途中で落ち、そこから上がって継続、もう一回落下、再度上がって歩いた覚えがあります。まあなんとか入学できたものの、その後も体育の時間が苦手な日々でした。

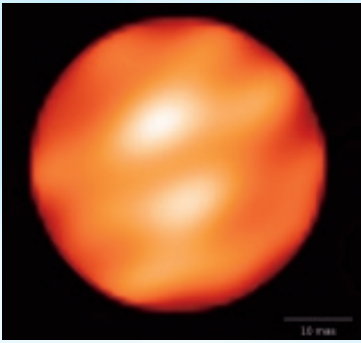
そして、短期大学英文科に入学、もう体育に悩まされることはないだろうと高を括っていました。しかし体育は必修科目でした。内容は山崎龍子先生による歩き方のレッスン、ダンス。中高部グラウンドの隅にある木造校舎で、先生が手を打つ拍子に合わせて一列に歩くのです。行進ではなくきれいな歩き方が求められました。「背は伸ばし頸を引き頭のでっぴんに本をのせて歩くつもりで」と少し高い声で指示がでます。そして後半は宮廷ダンスのように向かい合わせで二列になり、長いスカートをつまんだつもりでハンカチ2枚を両手に持ち踊るのです。試験の前には、皆で図書館の大ガラス窓に姿を映して練習しました。この授業はいつごろまで続いたのでしょうか。

最近、大きなショーウィンドーに映る我が歩く姿を見て、「背を伸ばし、頸を引いて」という声を思い出すようになりました。

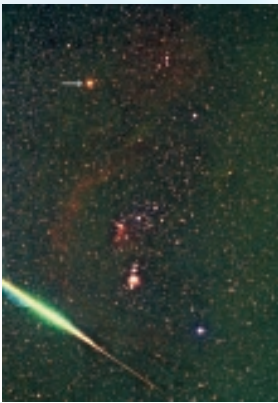
M.K.
高等部 1965年卒/短期大学1967年卒

「TOYO Wa-Wa」へのお便りは……

〒106-8507 港区六本木5-14-40 東洋英和女学院法人事務局 総務企画部 まで
e-mail: koho@toyoeiwa.ac.jp でも、お待ちしております。



ベテルギウス: NASAが公開したベテルギウスの写真。表面の盛り上がりとみられる二つの大きな白い模様も写っている
(Copyright © NASA パリ天文台)



オリオン座としし座流星群大火球。矢印の赤い星がベテルギウス(撮影地:東京都大島町/撮影:北崎直子)

ベテルギウス大爆発!?

最近、「ベテルギウスが爆発するって本当ですか?」「いつ爆発するのですか?」という質問を受けます。ベテルギウスとはオリオン座の赤い色をした一等星。大きさは平均で太陽直径の約一〇〇〇倍。太陽を直径二〇cmバレーボール位の大きさに縮めると、ベテルギウスは直径約二〇〇m。東京ドーム位の大きさになります。太陽の直径は地球の一〇九倍もありますから途方もない大きさです。さてこの超巨星ベテルギウスですが、一秒間で地球を七回半もできる光のスピードで、地球から約六四〇年かかる距離にあります。ですからたとえ巨大なベテルギウスでも地球から観測するということは、ちょうど大阪に置いたソフトボールを東京から見るようなものです。しかし最近では地球上の複数の望遠鏡を組み合わせるにより、このような遠い天体

の表面の様子も解るようになってきました。

三年前の一月にNASAが「ベテルギウスがもう星の最期の段階にある」と発表し、世間の注目を集めました。ベテルギウスの表面は梅干しのようにデコボコで膨らんだり縮んだりを繰り返しており、恒星の最後である超新星爆発の前段階に入っているとのこと。もしベテルギウスが爆発を起こしたら、その明るさは満月の一〇〇〇倍位になり、しばらくは昼間でも見えるようになります。私たちは人類史上希に見る天文現象を目撃することになります。では、その爆発はいつなのでしょう? 恒星の寿命は短くて数百万年から数千万年。長いものは数億年とも言われています。最期の段階といっても人間の寿命とは比べものになりません。明日かもしれないし数万年後かもしれません。それに見えるのは六四〇年後です。もしかしたらもう爆発しているかもしれません。

後援会より

2012年度後援会役員懇談会報告

10月5日(金)、後援会役員懇談会がANAインターコンチネンタルホテル東京で開催され、出席者数は学院側も含め約110名でした。学院全学部を8つの小グループに分けて行われた各分科会において、通学時の安全確保、災害に対する備えなどを含む学院生活について、後援会役員と教職員が活発に意見交換を行いました。



大学部門の分科会

桜プロジェクト実行委員会からのご報告

—ありがとうございますを桜の木に託して—

カナダから東洋英和に送られた婦人宣教師は100名を超えます。ミス・カートメル来日から130年、そのお礼に桜の木を先生の故郷ハミルトン市に贈ろうと計画が進められています。

多くの方がご賛同くださり募金にご協力いただいていることに心から感謝申し上げます。

カナダでの仲介役、カナダ合同教会牧師有賀誠一先生が10月に来日され、桜植樹の候補地にハミルトン市郊外のセンテニアルパークが挙げられ、その時期も2014年春を想定して市側が調整中であることをご報告くださいました。

★桜プロジェクト宣伝用DVDができ、集会でのご利用に貸し出します。同窓会HPでご案内中。



同窓会より

■同窓会クリスマス礼拝報告

12月1日(土) 14時から始められた礼拝は、目で味わうクリスマス聖画とパイプオルガンによる音楽礼拝として、ハレルヤコーラスまで新マーガレット・クレイグ記念講堂全体が優しく包まれました。

松岡裕子様(高等部1956年卒)の色彩と光が溢れる絵17点がダスクリーンに映し出され、絵とイメージのあったパイプオルガン演奏を学院オルガニストでいらっしやる河野和雄先生がたっぷりとお聞かせくださいました。

田中かおる牧師(高等部1973年卒、短大保育科1975年卒)の「世界で最初のクリスマスプレゼント」と題した説教では3人の博士が全財産を捧げて祝った御子の誕生は、わたしたちの心を神に向けてほんとうの自由を得させる、大きな恵み=プレゼントだと気付かされました。128年前ミス・カートメルが、この神の恵みを分かち合うために学院を創立された事にも触れて今わたしたちが出来るプレゼントは何でしょうかと問いかげられました。

同窓生を中心に始められた「桜プロジェクト」のDVDも上映され、敬神奉仕の思いでつながる英和の精神が集会室でのお茶の会にまで温かく流れた午後となりました。



輝く天を仰ぎながらハレルヤコーラスが大講堂に響きました